

あわじ環境未来島特区

[指定：平成23年12月、認定：平成24年2月]

I 目標に向けた取組の進捗に関する評価

i) + ii) の平均値 $(4.3+4.6)/2=4.5$

4.5

i) 取組の進捗

目標値に対する実績に基づく進捗度(当年度実績)

番号	評価指標	進捗度	評点
1	エネルギー(電力)自給率	106%	5
2	二酸化炭素排出量	120%	5
3	再生可能エネルギー創出量	102%	5
4	竹燃料の消費量	81%	4
5	新規就農者数	67%	3
6	再生利用が可能な荒廃農地面積	114%	5
7	一戸当たり農業生産額	78%	3
8	持続人口(定住人口+交流人口)《定性的評価》	-	-

評価指標毎の進捗の評価の平均値 $(5 \times 4 + 4 \times 1 + 3 \times 2 + 2 \times 0 + 1 \times 0) / 7 = 4.3$

4.3

・1つの評価指標に複数の数値目標がある場合は、各数値目標の評価を寄与度に応じて加重平均する。
(例)評価指標1について、a、b、cという3つの数値目標があり、各数値目標の評点・寄与度がa:5・20%、b:4・10%、c:3・70%の場合、 $5 \times 0.2 + 4 \times 0.1 + 3 \times 0.7 = 3.5$ で、四捨五入して評価指標1の評価は「4」となる。

■ 地方公共団体による特記事項

※外部要因による数値への大幅な影響等があれば記載

ii) 取組の方向性に対する評価

専門家による評価の平均値

4.6

II 支援措置の活用と地域独自の取組の状況に関する評価

i)、ii)、iii)の平均値 $(4.5+4.3+5)/3=4.6$

4.6

i) 規制の特例措置を活用した事業等の評価

専門家による評価の平均値

4.5

ii) 財政・税制・金融支援の活用実績の評価

専門家による評価の平均値

4.3

iii) 地域独自の取組の状況の評価

専門家による評価の平均値

5.0

Ⅲ 取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決に関する評価

(専門家所見(主なもの))

4.8

- ・多くの指標で目標を上回って進捗しており、地域独自の取組みも多岐にわたっていることから、著しく優れている。
- ・竹燃料のようなユニークな試みも含めて、人口規模が大きな島でおよそ1/3のエネルギー自給を達成していることは特筆すべき実績である。
- ・小中規模の太陽光発電施設の系統連系手続きや、電気主任技術者の外部委託等の手続きを短縮するための制度の活用を進めるなどの積極的な自治体の努力が、施設の整備につながっていることが高く評価される。
- ・再生可能エネルギーの「テストアイランド」として、変動性再生エネルギー発電比率の拡大による電力システムの安定性などを含めて、実績を広くアピールすることや、現在の農業振興の取組に加え、本特区の技術観光や京阪神に近いという地理的優位性を活かした企業誘致等も検討するなど、「淡路島」という地域ブランドの確立を図られることを期待する。
- ・持続人口の見通しがやや不透明な中、エネルギーの持続・自立と地域活性化との結びつきを象徴させる、さらなる取組みが期待される。例えば、地域独自の取組みである施設園芸への竹チップボイラー暖房から、長期的には、さらに排ガス改質によるCO2の施設内貯留・施用やICT等による統合環境制御での省エネ・付加価値化など、エネルギー・環境を考慮した施設園芸の高度化なども視野に入れてみてはどうか。

専門家による評価(専門家の総合的な所見)の平均値

4.8

総合評価

I、II及びIIIを1:1:2の比率で計算 $(4.5+4.6+4.8 \times 2) \div 4 = 4.7$

4.7

(注)評価に係る評点及び表記の考え方については以下のとおり。

- ・評価は5～1(評点)で行う。
- ・進捗度は、100%以上を5、80%以上100%未満を4、60%以上80%未満を3、40%以上60%未満を2、40%未満を1とする。
- ・進捗度以外の評価項目における評点は、5:著しく優れている、4:十分に優れている、3:適当である、2:適当であると認めるには不十分である、1:適当であると認められないとする。